



笛南中通信

甲府市立笛南中学校
文責 校長 鈴木 昇

全国学力・学習状況調査結果概要

(裏面参照)

桑葉祭に新たな歴史

9月20日(金)から2日間で、生徒会の最大行事である桑葉祭が開かれました。長い雨天が予想される中で、無事日程通りに開催できたことはとてもよかったと思います。

今年の体育部門から、各学年級対抗型の競技から、1年生から3年生までを4つのブロックに分けて対抗する形に変更されました。



ムカデ競争で応援する他ブロックの生徒たち

生徒たちも「新しい歴史を作るぞ」と意気込んで取り組んでいました。縦割りの4つのブロックにしたことで、3年生も上級生として下級生をまとめる役割が増え、主体的な活動が多く見られました。さらにムカデ競争で大差がついたブロックを他のブロックが全員で応援する姿など心温かい本校生徒のよさが随所にありました。新しい体育部門の始まりにふさわしい成果だったと思います。先生方もブロックに分かれ学年運営とは又違ったチームワークにより生徒を導いてくれました。

2日目の文化部門では、例年通り各学年の演劇や吹奏楽部の演奏を中心に華やかに実施されました。

1学年は、富士山周辺の校外学習の成果を発表し、集団パフォーマンス

ンスにより学年のまとまりをアピールしました。2学年は、戦時中の空襲により殺処分となる動物園の猛獣の行方を題材とした演劇を、3学年は、生まれてくる前にどう生きるかを、それぞれの命が語りあう演劇を披露しました。練習した演技もうまく表現できて、見ている生徒たちを引き込んでいました。短い時間の準備でしたが、伝統をよく引き継ぎ文化豊かな1日を過ごしました。

デモン市訪問の報告・ヒロシマ原爆資料館訪問の報告、弁論大会に参加した弁論の発表など、ますます中身が濃い内容になっていたことをうれしく思います。

- 平和な中道地区だけ交通事故が絶えない -
自分を守る「安全確認」と大切な「一旦停止」

最近の交通事故は、大通りではなく、中道地区内の狭い道路で発生することが多くなりました。混雑を避けて「抜け道」として急ぐ自動車や、狭い路地を一旦停止せずに飛び出してしまうなどの安全に関する意識のゆるみも原因になっているようです。

今年に入って、何件かの交通事故が中道地区内の狭い路地で起きています。つい最近も狭い路地で自転車の飛び出しによる事故が発生しました。本校では年度初めより全校体制で安全教室を実施し、南甲府署から「交通事故防止に関わる自転車安全利用推進校」に指定され取り組んでいます。教職員全員も安全指導を見直して取り組んでいるところです。保護者の皆様もお子様に「安全確認と一旦停止」を徹底してください。



2日目 文化部門の様子



笛南中通信

甲府市立笛南中学校
文責 校長 鈴木 昇

全国学力・学習状況調査結果概要

全国の小中学校で一斉に実施された調査について、集計結果が7月に届き、本校では、夏の校内研究会において、その結果を分析し今後の教育指導に生かそうと考えております。本校の学習・学習状況については、大まかですが、次のとおりとなりました。

総合的な結果

すべての教科において県、全国と同等もしくはそれ以上の学力が身に付いていると判断できる。

[各教科の状況]

国語 平均正答率が県、全国を大きく上回っている。領域、評価の観点、問題形式のすべてで県、全国を上回る正答率を示している。特に書くことに関わる内容については平均正答率が90%を超え(全国平均82%)、定着の様子が見える。一方読んだ情報を整理することに課題が見られる。

[数学]

県、全国と同等の学力であると考えられる。図形に関する知識・理解においては他の項目と比べて県、全国を大きく上回る正答率を示している。一方、関数に関する領域においては課題がある。ただし、無回答率は低いことから前向きな意欲を評価しながら課題の改善に努めた。

[英語]

県、全国と同等の学力であると考えられる。言語に関する知識においては理解の様子が見られる。一方で、それらを活用して表現することに課題がある。特に読んだり聞いたりしたことに対して、書いたり話したりして応答する技能統合型の問題では正答率が低く、無回答率も高い。

生徒数が少ないので、その年ごとに実態が変わっていることも考慮しなければならないですが、国語の記述式の正答率が特に高いことは、素晴らしいことです。しかし、数学、英語では記述式の問題に関して苦手な傾向が見られました。数学の考え方・まとめ方を身に付け

させ、考えを述べたり書いたりする機会を授業の中で増やしていくことで改善につなげていきたいと思っております。

また、質問紙調査から、「数学の授業で学習したことは将来社会に出た時に役立つと思いますか」の回答で「当てはまる」と回答した比率が国・県より2割も低かったなど、数学に苦手意識があることが分かりました。本年度から数学のベテランの先生を1人増やすことができたので、改善を図っていきます。

また、質問の回答から学校の活動への前向きな意欲や、それを成功体験が支えている様子がうかがえます。いじめ防止への意識の高さは小学校からの積み重ねや昨年度まで道徳を3年間研究し実践してきた成果と言えるかもしれません。

一方、生活規律では、「いつも同じ時刻ぐらいに起床・就寝していますか」という問いに対して「している」という回答の比率が国・県より1割以上低く、「人の役に立つ仕事をしたいと思いますか」や「家で計画を立てて勉強をしていますか」などの社会的・生活的な自立を問う質問には全体的に低い傾向が見られます。中学3年生としては、まだ家族で世話してくれることに依存している傾向が見られ、自立心の成長がゆっくりではないかと分析しています。

今回の桑葉祭のブロック対抗の仕組みには、一人一人の役割を自分で気づき協力したりリーダーシップを取ったりする機会を入れました。「自分でできる」は小学校での達成目標です。中学では「社会に通ずる役割や責任を果たし、自分の夢を実現する」目標が変わります。

あまりゆっくり育っていると、急に進路や将来の仕事などの決断をしなければならない時が来るので、自分について真剣に考えることができず、高校選択で苦勞する場合もあります。

新しい大学入試制度に直面する世代ですので、求められる自分の考えをはっきり持ち、きちんと伝えられる力と実行する行動力を身に付けさせるよう、今後も取り組んでまいります。

愛校作業ありがとうございました。

8月18日(日)早朝よりたくさんの方の協力により、校舎周辺の除草等をしていただき、2学期を始める環境となりました。重ねてお礼申し上げます。

愛校作業のあと、女子バレー部は招待試合に出かけたとのことで、長い一日だったようです。